

1 富山ガラス工房開設30周年記念展
Gatheringギャザリング—つなく創造力

展示室1-3
[2・3F]

2025年 3月8日[土] ▶ 6月22日[日]

1994年、「ガラスの街とやま」の一翼を担う施設として開設された富山ガラス工房は、2024年に30周年を迎えました。工房で切磋琢磨し、現在、全国で活躍している作家は100名余。その創造力あふれる若い才能の数々が、富山ガラスの魅力を発信してきました。本展では歴代スタッフの作品と共に、工房30年の軌跡をたどり、未来へと続く針路を展望します。



西中千人《呼継「焰」》2023年

2 開館10周年記念
Livesライブズ—富山市ガラス美術館所蔵品選

展示室1-3
[2・3F]

2025年 7月18日[金] ▶ 10月13日[月・祝]

富山市ガラス美術館は、今年で開館から10年を迎えます。この10年という期間の中で、ガラスを扱う作家たちや私たちを取り巻く環境は急速な変化を見せ、「生」について改めて問うような数多くの転機や出来事がありました。本展では命、人生、日常生活、動きなど様々な意味を含む「Lives(lifeの複数形)」をテーマに、当館所蔵作品をご紹介します。



ケイト・ベイカー《Within Matter #7》2020年、富山市ガラス美術館所蔵、撮影：末正真礼生

3 開館10周年記念
めぐりあう今を映す—日本の現代ガラス 1975-2025

展示室1-3
[2・3F]

2025年 11月1日[土] ▶ 2026年 1月25日[日]

1970年代後半以降、国内では作家自らの手でガラス制作を行う動きが広がります。国際交流が盛んに行われ、教育機関の設立や公募展の開催が相次いだ1980～1990年代を経て、今日に至るまでに多様な表現が生み出されています。本展を日本の現代ガラス50年の歴史と現在を紹介する機会とし、ガラスという素材から展開する表現の魅力と可能性に迫ります。



生田丹代子《揺-40》1991年、富山市ガラス美術館所蔵、撮影：斎城卓

4 Noctisノクティス—陰翳礼讃—(仮称)

展示室1-3
[2・3F]

2026年 3月7日[土] ▶ 6月21日[日]

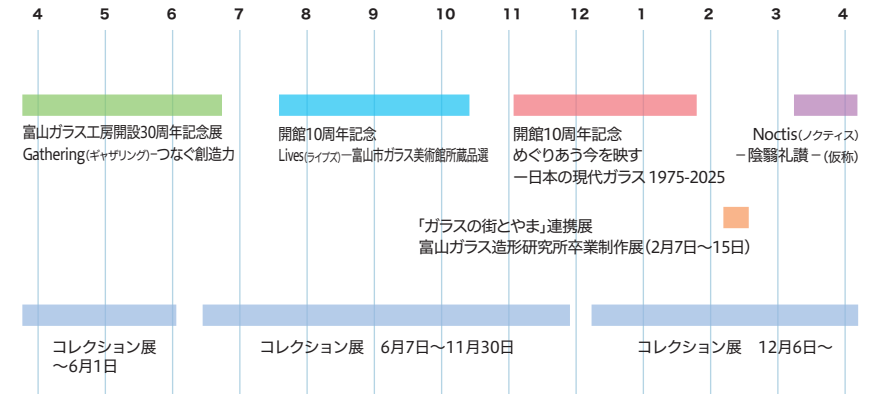
19世紀から現代にかけて、ガラスを素材とした作品は、その陰翳の妙によって、豊かな象徴性や幻想性を帯びたものとなりました。中でも、黄昏や夜、影、闇をテーマとした作品は、暗がりへの畏怖や畏敬を見る者に想起させます。そうした作品群は、科学技術の発達、都市の拡大によって陰翳が日常から遠のいて久しい今日、見慣れた世界を新たな感性で捉える心を私たちに開かせてくれるでしょう。



木下結衣《余波》2024年、富山市ガラス美術館所蔵、撮影：末正真礼生

2025

2026



※記載内容は変更する場合があります。